

[附属練習船・勢水丸]

平成30年度附属練習船勢水丸業務報告

前川 陽一・中村 亨

附属練習船勢水丸船長・一等航海士

1. 平成30年度附属練習船勢水丸運航概要

平成30年度は、実習航海19航海、研究航海8航海、地域貢献等その他の航海8航海の合計35航海、計149日の航海を実施した。実習航海では401人、研究航海では120人、その他の航海では41人が乗船した（すべての乗船人数について海事教員は除く）。松阪港停泊中には、フィールドサイエンスセンター体験演習として4日間で268人の演習を実施したほか、2団体20名（企画総務部定型業務等運営・支援センターキャンパス環境整備室の室員および教育学部技術教育課程教員、学生）の見学を受け入れた。

教育関係共同利用拠点事業では、2期目の4年目となり、単独航海では四日市大学環境情報学部、京都大学総合人間学部、北里大学海洋生命科学部の3大学で合計71人が乗船した（毎年実施している名古屋大学理学部については台風接近のため中止となった）。公開実習航海では室蘭工業大学、新潟大学、筑波大学、東京学芸大学、名城大学、名古屋女子大学、皇學館大学、京都産業大学、同志社大学、九州大学の学生39人が本学の学生とともに所定の実習を行って単位認定を受ける特別聴講学生（特別聴講学生以外の学生、教職員、その他外部乗船者など共同利用としての乗船者を含めると50人）として乗

船した。

その他の航海では、高大連携事業のハイスクールフィールドワークとして生物計測実習と環境計測実習の2航海を行い、四日市高校、四日市南高校、津高校、津西高校、高田高校、セントヨゼフ女子学園高校の生徒および教員が55人乗船した。また地域貢献航海として、M-EMS（ミームス）環境倶楽部に所属している事業者などが参加して伊勢湾海洋調査体験航海を行い、学内教員などを含めて関係者が14人乗船した。台風避難航海では、台風20号、21号、25号の避難として合計7日間の避難航海を行った。

検査工事・一般修繕工事は、一般入札により平成31年1月16日から2月9日（工事期間1月17日～2月8日）まで大阪市西成区の株式会社ダイゾー木津川工場で実施した。今年度は5年に一度の定期検査（竣工10年目）ということで検査内容も多くなり、検査工事費用が例年より大きくなったため、一般修繕工事を必要最低限にとどめて実施した。実習航海や研究航海に支障が出ないように注意して検査・整備工事を行った。

平成30年度の航海実績については、以下の表を参照していただきたい。

平成29年度 航海実績

実習航海

航海番号	種別	航海名	期間	日数	乗船者数 (女性)	備考
1802	公開	水産生物学実習	4/7~10	4	24 (6)	
1804	学内	博士後期課程特別調査研究	5/14~15	2	14 (7)	

1806	単独	(単)京都大学 総合フィールド演習	5/30~6/1	3	23 (6)	京都大学23人
1807	公開	海洋環境調査実習	6/9~11	3	13 (2)	(株)シードバンク1人
1813	単独	(単)四日市大学 伊勢湾海洋調査実習	8/2~4	3	24 (1)	四日市大学24人
1815	公開	海洋総合航海実習	8/25~30	6	12 (2)	
1817	学内	環境科学~海に親しむ~	9/10~12	3	16 (4)	
1818	学内	乗船実習Ⅰ (第1班)	9/13~14	2	21 (5)	
1819	学内	乗船実習Ⅰ (第2班)	9/18~19	2	21 (5)	
1820	学内	乗船実習Ⅰ (第3班)	9/20~21	2	22 (6)	
1821	公開	海洋生物資源調査実習	10/2~5	4	24 (6)	
1823	公開	紀伊黒潮流域圏航海実習Ⅰ	10/16~17	2	25 (15)	名古屋女子大学10人 皇學館大学4人
1824	公開	紀伊黒潮流域圏航海実習Ⅱ	10/24~25	2	21 (15)	名古屋女子大学10人 皇學館大学3人
1826	公開	陸海空・環境科学実習 1班	11/5~9	5	23 (6)	筑波大学1人 新潟大学2人 同志社大学1人 九州大学1人 東京学芸大学2人 名城大学1人
1827	公開	陸海空・環境科学実習 2班	11/12~16	5	26 (7)	九州大学3人 京都産業大学1人 室蘭工業大学1人 筑波大学1人
1829	単独	北里大学 海洋実習	12/18~20	3	24 (16)	北里大学24人
1830	学内	乗船実習Ⅱ (第1班)	2/22~27	6	22 (6)	臨時アルバイト1人
1831	学内	乗船実習Ⅱ (第2班)	3/4~9	6	22 (6)	臨時アルバイト1人
1832	学内	乗船実習Ⅱ (第3班)	3/14~19	6	24 (6)	臨時アルバイト1人
小計				69	401 (127)	

研究航海

航海番号	航海名	期間	日数	乗船者数 (女性)	備考	
1802	研究航海 (宮崎)	4/16~20	5	9 (1)	熊野灘海域での底カゴと釣りによる深海生物の採集および海洋観測の実施	
1803	研究航海 (木村)	4/24~28	5	18 (1)	深海性のマクロベントスおよび近底層魚類とその寄生生物の採集	
1808	研究航海 (宮崎・井須)	6/18~29	12	18 (3)	南方系アオリイカの資源量並びに生態調査	
1809	中部大学試行航海	7/18~20	3	19 (3)	H31年度の中部大学応用生物学部単独航海に向けての試行航海	
1822	研究航海 (中村・石坂)	10/9~13	5	11 (5)	伊勢・三河湾のクロロフィルaと植物プランクトンの群集構造の把握	
1825	クリティカルケア看護	11/1~2	2	5 (5)	クリティカルケア看護	
1833	研究航海 (中村・角皆)	11/20~22	3	17 (5)	深海性動物プランクトンの分類・生態・生化学に関する研究	
1828	研究航海 (前川・大塚)	11/27~30	4	23 (6)	伊勢湾・三河湾・湾口部海域における酸素および栄養塩循環の解析	
小計				39	120 (29)	

その他 (一般公開, 避難, ドック)

航海番号	種別	航海名	期間	日数	乗船者数 (女性)	備考
1805		M-EMS環境倶楽部伊勢湾海洋調査体験航海	5/22	1	23 (4)	
1811		高大連携事業ハイスクールフィールドワーク 第1班	7/26~27	2	27 (9)	
		台風12号避難航海	7/28~29	2		
1812		高大連携事業ハイスクールフィールドワーク 第2班	7/30~31	2	28 (2)	

1814	洋上セミナー	8 / 6～7	2	23 (7)
	台風20号避難航海	8 / 23～24	2	
	台風21号避難航海	9 / 3～5	3	
	台風24号避難航海	9 / 30～10 / 1	2	
	定期検査及び一般修繕工事	1 / 16～2 / 9	25	
小計			41	101 (22)
合計			149	622(178)

本船見学

8月9日	企画総務部定型業務等運営・支援センター キャンパス環境整備室の室員	13人
12月5日	本学教育学部技術教育課程教員，学生	7人

2. 平成30年度全国水産・海洋系学部等協議 会練習船等分科会報告

(1) はじめに

全国水産・海洋系学部等協議会練習船等分科会（以下、分科会とする）とは、練習船を持つ次に掲げる水産・海洋系大学（校）を会員として組織され、練習船等の運営並びに教育研究調査などに関する諸問題を協議し、練習船における教育研究調査の充実発展を図るとともに、練習船相互間の連絡を緊密にして管理運営の改善を促進することを目的として、年に一回、分科会に組織する各大学（校）の持ち回りで開催されるものであり、平成30年度は水産大学校が当番校として実施された。

平成30年度分科会は、平成31年1月11日（金）に水産大学校の練習船「耕洋丸」の第一学生教室で開催され、北海道大学、東京海洋大学、三重大学、広島大学、長崎大学、鹿児島大学、水産大学校から各練習船の船長、機関長をはじめ、練習船乗組員や関係教職員などが出席して行われた。分科会前には前年度に竣工された同大学校練習船「天鷹丸」の船内見学が実施された。分科会では、はじめに水産大学校実習教育センター実習管理役の水谷教授から挨拶と資料説明があり、同大学校の酒井校長の挨拶の後、当番校から耕洋丸の鎌野船長が議長に選出され3つの審議事項（広島大学と水産大学校）と4つの報告事項（東京海洋大学、広島大学、長崎大学、

水産大学校）により議事が進行された。来年度の分科会については審議事項の議題3のとおり、東京海洋大学が当番校となり開催されることとなった。分科会終了後は、下関市内にて情報交換会を行った。

(2) 分科会議事録

日時：平成31年1月11日（金）15:00～17:30

場所：水産大学校練習船耕洋丸第一学生教室

【審議事項】

議題1. 教育関係共同利用拠点にかかる利用料 について

広島大学から議題に関する情報が求められた。各大学ともこれまで食費やクリーニング代の徴収のみを実施しており、その他利用料徴収の実績は無く、また今後もその予定は無いという回答であった。ただし長崎大学のみまだ検討段階ではあるが、今後利用料の徴収を考えている旨の報告があった。

議題2. 乗船学生のアレルギー対応について

水産大学校から議題提案理由と過去の実績報告があり、各大学における対応策などの情報が求められた。これまでアレルギーを持つ学生の乗船はどの大学にもあり、症状の大小により対応は様々であった。水産大学校からは特に小麦アレルギーの重症学生乗船実績があり、司厨

長がその学生専属となり長期航海を乗り切ったという報告があった。

議題3. 次回当番校及び役員について

水産大学校から提案があり、以下のとおり次回当番校、幹事が決定した。

次回当番校：東京海洋大学

開催時期：未定

会長：野田 明 海鷹丸船長

副会長：林 敏史 神鷹丸船長

副会長：亀井佳彦 うしお丸船長

幹事

北海道大学：亀井佳彦 うしお丸船長

東京海洋大学：宮崎唯史 青鷹丸船長

三重大学：前川陽一 勢水丸船長

広島大学：中口和光 豊潮丸船長

水産大学校：秦 一浩 天鷹丸船長

長崎大学：青島 隆 鶴洋丸船長

鹿児島大学：内山正樹 かごしま丸船長

議題4. その他

特になし

【報告事項】

報告1. 第17回全国水産・海洋系学部等協議会報告について

東京海洋大から今年度6月に東京海洋大学品川キャンパスで実施された「第17回全国水産・海洋系学部等協議会」について、同会議議事要旨に沿って報告がなされた。

報告2. 豊潮丸の機関故障について

広島大学豊潮丸久保田機関長から豊潮丸で発生した機関故障に関する報告があった。故障に関する詳細や対応方法などが説明された。

報告3. 新長崎丸について

長崎大学の長崎丸の森井船長から、新長崎丸の紹介があり詳細に特徴などの説明をうけた。耐用年数の増加により維持費のかかる機器や装置の導入を取り止めた話が印象的であった。

報告4. その他

水産大学校実習教育センター実習管理役の水谷教授から、天測暦および天測略暦が2022年までで廃版するという情報が提供された。

報告5. その他

特になし

3. その他

昨年度リニューアルしたHPの改訂や、同時に開始した本船の公式フェイスブックページ (<https://www.facebook.com/seisumaru/>) の更新を可能な限り実施し、情報発信を積極的に行うようにした。

また、外洋域航走中の流向流速などの観測データを第四管区海上保安本部海洋情報部 海洋調査課海象担当、三重県水産研究所、日本水路協会に提供しているが、昨年度は13航海分のデータを提供し、平成30年度は11航海分のデータ提供を行うことができた。これに関してはこれからも各機関に提供できるように続けていきたいと思う。